

# 「リウマチ手記」 匿名希望 50歳

2014年11月14日

平成25年11月に両肩に激痛が走り、数日のうちに両手の指が強張り、病院で下された病名は、現在の医学では難病と言われているリウマチと診断されました。リウマチと聞いた瞬間、目の前が真っ暗になり、奈落の底に突き落とされた感じで、ショックは計り知れないものでした。その現実を受け入れることが出来ず、気持ちが混乱し、悪夢であるなら直ちに覚めてほしいという感じでした。日増しに思うように動かさなくなっていく指に、日常生活にも不自由を感じるようになり、出来ていたことが出来なくなっていくことに戸惑うばかりになりました。指の痛みから水道の蛇口、ドアノブが握れない、ガスコンロの栓が回せない、洋服ダンス、食器棚の戸、ビンの蓋、ペットボトルのキャップが開けられない。ハサミの柄などを利用して指に負担が掛からない方法で何とか対処していました。良くなっていく兆しは全くなく、今日出来ていたことが明日には出来なくなるのではなかろうかと不安な毎日で、気も次第に滅入り、指の不自由さが大好きであったお風呂にも入る気力すら奪っていきました。それくらい普通の生活ですら億劫になっていました。明日には普通に動くようになってほしい。と、それを願う毎日でした。手は完全に握ることが出来ず、指はゆっくりゆっくりと動かし、重たい物は持てないなど制限されるに連れて生活の不自由さが増していき、次第に活気が失われていった。丁度その頃に東洋医学でリウマチが治ったという話を耳にし、藁にもすがる思いでインターネットで検索し、松本医院を知ったのでした。

そこには先生の書かれた素晴らしい理論が沢山掲載されており、それを拝読するにつれて勇気がふつふつと湧いてきました。特に「病気は自分の免疫で治すもの」という一語にひかれ、大阪に行くことを決意しました。病気が発症して4ヶ月が経過していました。松本医院に一步踏み入れると漢方のいい香りに包まれ、疲れ切っていた心と体が癒されるようでした。松本先生の「免疫を高めれば病気は治る」という力強い言葉によって、暗闇の中に一条の光が差し込んだ瞬間でした。その日から東洋医学の治療が始まりました。漢方薬、鍼、お灸、漢方風呂、何もかもが初めての経験です。全て免疫を高めるための最善の治療法。特にお灸は、最初は熱いだけだったのが慣れてくると、こつも判るようになり、段々心まで落ち着いていく不思議な感覚を覚えました。治療を始めて2ヶ月、指が真っ直ぐに伸びるようになっていました。力も入る。治療の効果に驚きでした。今は不自由なく生活が送れるまでになっています。当たり前なことがどれほど大切だったのかつくづく実感しました。何でもない動作が普通に出来ることに感謝せずにはおれません。松本先生を始め、医院の皆様、ここまで回復させていただき本当にありがとうございました。